

CN (モロッコ) 正月休み 観光旅行

JH3AEF 東條純一

1. プロローグ

登場人物はN,J,H,Y,O,T,Mの7人、7組と言った方が正確か、いずれも還暦もとくに過ぎた熟年、いや言いたくはないが、もはや老年の紳士？淑女？である。

昨年9月の同窓生の飲み会で、Nいわく「皆さん、モロッコへ行きませんか？」

「いいわ、H[?]、Y[?]、しかしYのXYLは「いきましょよ、O「いこかな？」、MとT「行きます」、TはMの大宅さんだからTが「行きます」ならMの「一発回答「いきます」は当然か。いや、XYLに「はいしょ」されての「行きます」か？」Jの「いいわ」は発作的反応か。

話はやや以前からあったらしい。Tの娘さんが医者になっているのは知っていたが、どうも外国にいらしい。その外国がモロッコだと知ったのは、話がかなり進んでからであった。ようするにTが娘に会いに行くのに便乗しようとかいうことで話は始まったのだ。

当然Tは以前にもモロッコに行ったことがある。娘に会いたい一心でと思いきや、この娘さん、現地のOMと結婚することになり、急遽、相手の家族との顔つなぎに行く旅だったのだそうだ。

Nはかなり以前、旅行社のモロッコツアーに参加した経験があり、今回は二度目の訪モロになる。よって団長役を務めることになった。しかし、この団長NのXYLは「うちの主人、変なことばかり行きたがりますねん、私はもっと洒落たところへ行きたいのに、もう言い出したら聞かれませんねん。そいでも皆さん行きはんのやったらご一緒しますわ」変なこと？一寸Tに失礼かもよ。

HはXYLが最後まで乗り気でなかった。なぜなら、団長Nいわく「砂漠では現地人のテントで寝ます、トイレは満天の星の下、砂がきれいに吸い取ってくれます、砂漠はらくだに乗って移動します」男性なら興味津々かも知れないが、ご婦人にとっては相当の覚悟がいることは必定。それでもNのXYLの「まあみんな、奥さんも行きはるんやから行ってみましょうよ」に諭されて最後には「参加します」

Y「そんな砂漠で持病の心臓発作が起こったら、なんぼ全員が医者でもどないもならん。XYLには悪いが止めとくわ」

O「ぼくも肺があんまり丈夫ではないが、しんどくなったらホテルで留まっとく、行かわ」

そんな、こんなでT,N,M,H,O,J 6組の夫婦12名が参加することになった。

12名にもなれば旅行会社も立派にツアーを組んでくれるだろうと思いきや、なんと自前の計画でやるのだぞぞだ。まあTがいるから大丈夫とすっかしまかせっきりで、旅のことなど気にもしない毎日が過ぎていった。

それでも10月も末になるとメールやFAXの着信が頻繁になりだした。Tは当然のことながら現地としょっちゅう連絡を取っているらしい。団長Nはその情報の中から、われわれの旅行に必要な情報を逐一流してくれる仕掛けである。

ある日の情報 旅程がほぼ決まりました。モロッコの玄関、カサブランカを振り出しに、マラケッシュ、ウオルザザード、ザゴラ、ウオルザザード、カサブランカ、フェズ、ラバト、カサブランカと回ります。主だった所はほぼ全て網羅してあります。全ての行程を車3台に分乗して移動します。飛行機の便が決まりました。12席分のビジネスクラスは取れませんでした。クリスマス、正月休み期間なので、精一杯頑張りましたが無理でした。その分安くなったのだから悪いことでもないでしょう。2~3席なら成田発でビジネスも取れるらしいですが皆さん一寸辛抱してください。エコノミーなら座席はどの位置でもとれます、リクエストしてください。いずれもXYL連にはまたまた気に入らない情報でした。

現地はいま冬です。行程にはオートアトラス山脈といふ3000m級の山々を横切る峠があります。自動車の中とはいえ、防寒の準備はおこたらないように。砂漠で泊まるテントは現地人が日常使っているもので、電気もガスも暖房器具もありません。充分な防寒準備が必要です。こまめくるとXYL連、もうどうでもせい！

アフリカと聞けば冬なんか無い熱帯というイメージだが、冷静に考えれば地中海をはさんでお向かいにはEA,F,Iの国々である。そこいらと何等変わりない気候であって当然であるのだが。事実、地図を見れば緯度は日本の屋久島のそれと同じ位置にあるのだから、逆にそれほど寒い寒いと恐れることもないはずであった。



CNはJAからshort pass 330度 long pass 150度

N団長からの指令 旅行中の皆さんの役割を決めました。全てお任せします。各人自分の役に専念して下さい。なんや、まるで軍隊やな！

J、マイクの係り。それぞれの観光スポットでは全てガイドを手配しました。目的地に着いたら先ずガイドと打ち合わせてマイクを渡し説明してもらって下さい。日本人のガイドは一人も見つからず、すべて英語のガイドになりました。奥さん連中には分かりにくいでしょうから、マイク係は通訳もお願いします」

そんなあほな、通訳？マイク？皆さん、押さないようにお願いします」の、あのマイクかいな、そんなでっかいもん持ち歩くのかと思いきや、飛行機の中で団長から手渡されたのは手の平に乗る小電力のTX 1機とRX 5機であった。なるほど考えたな。でも、いくら小電力とはいえみだりによそ様の国で電波を発射して良いものか？。団長以下そのような高等？なことは全く気にも留めていないようだ。

H、ホテルの係り。ホテルに着いたらチェックイン、部屋の割り振り、食事の時間と場所の確認、各人へのモーニングコールと次の日の出発時刻の徹底をお願いします」おいおいモーニングコール？そんなことまで俺がやるんかいな。部屋にちゃんとついてるやろう おれがモーニングコールしてほしいのに！

O、配車係。毎日各人が乗る車を決めてください。出来るだけ毎日の乗り合いが入れ変わっていくように。ドライバーも組み合わせに入れてください。ドライバーへは毎日ご苦労さんでしたとその日の終わりにチップを渡しますか？決めてください。ドライバーへのチップの額も、その日の運転状況により決めてもらってかまいません。乱暴な運転で気に入らなければ加減してもかまいません。まかせます」解らんことないけど、えらい怨まれ役やのう

T、現地とのパイプ役を受け持ちます。現地の娘さんと娘婿さんを通じて情報を入手し、こちらからの問い合わせ、希望を伝え、旅の円滑な進行を図ります。旅行中も逐次現地との渉外に努めます。気になることは何でもお知らせください」

M、大福袋の係り。航空機、宿泊費、ツアー車(トヨタのランクル3台ドライバー付)の費用は前納していただきました。その他パーティーとして行動した際の支払いを一手にお願いします。昼食代、入場料、ガイドに支払う代金、、、必要に応じて皆から金を集めてプールし(=大福袋)そこから支払うようにお願いします。集金は毎日？数日分まとめて少々多めに？いや、もう全てお任せします。細かい会計報告はいりません」当たり前やろ、そんなことしとつたら観光どころやあらへんがな。えらいことおおせつかったなあ！

そんなこんなで6組12名の一団が旅に出ることになった。男共は全員間もなく70歳、全員が今は元気に動いているものの、過去にはかなりの大病を経験したもばかり、本人達はいたって快活で何の不安もなく心は20歳台？30歳台の若者のようつものだから、連れ合いは(XYL達)は少々呆れ顔、それでもつられてはしゃぎながらの出発となった。



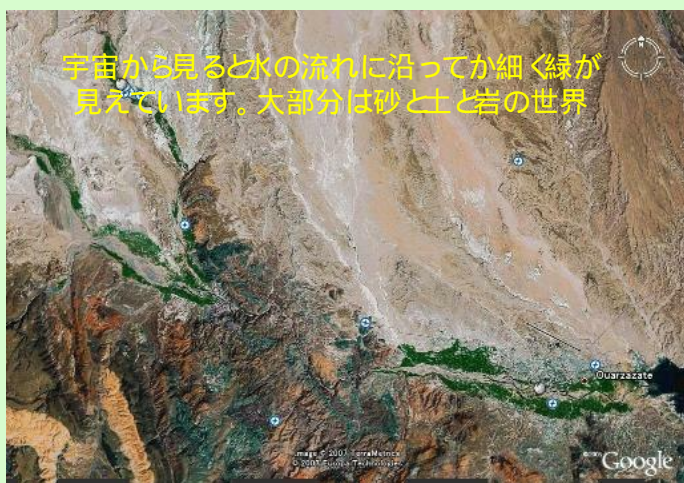
砂漠はイメージどうし靴を履いていてもすぐ砂がどっさり入る。履かないほうがましなくらい



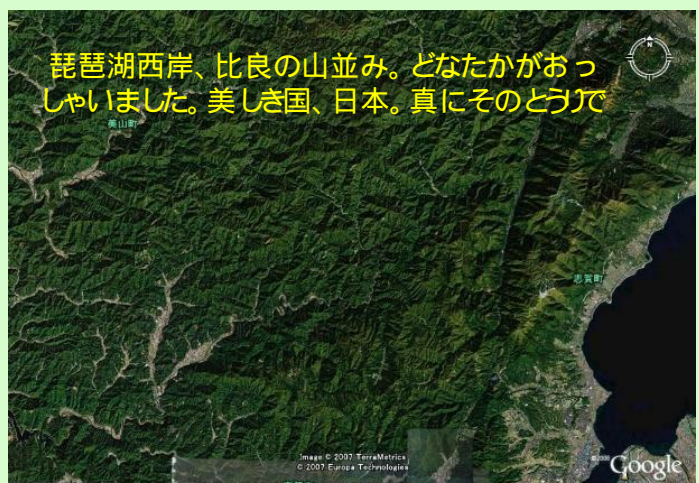
岩漠すなわち一面のいわっぱら。地球の年輪を見ているよう



土漠すなわち荒涼たる土の大地



宇宙から見ると水の流れに沿ってか細く緑が見えています。大部分は砂と土と岩の世界

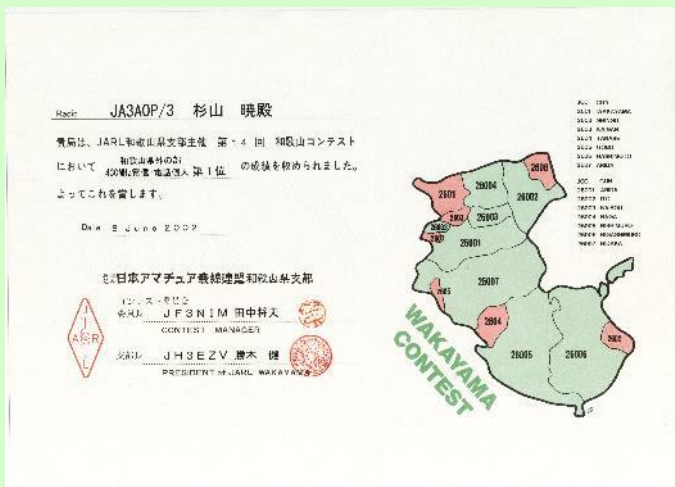


琵琶湖西岸、比良の山並み。どなたかがおっしゃいました。美しき国、日本。真にそのとうで

アマチュア無線の賞状 あれこれ



ARRL DX Phone 2005は Low Power部門で幸運にもJA # 1を頂きましたが、この部門には楯の提供があり、二重の幸運に恵まれました。



和歌山コンテスト副賞を狙って各地の山からの和歌山県の可視マップでシミュレーションし、見事的中。副賞は梅干好きの姪に行きました。



近場相手なので気軽に楽しめるコンテスト

4月13日に大阪国際交流センター・ラジオクラブの総会が行われ下記のとおり選出されました。
 理事 : JA3AA/島, JA3AER/荒川, JA3AOP/杉山, JA3PYC/山本, JA3USA/島本
 監事 : JA3VWT/中野 会計 : JO3BAV/上田
 会長 : JA3AA, 月例会: JA3AER, NewsLetter: JA3AOP, Roll Call, クラブ局: JA3PYC, Web: JA3USA

大阪国際交流センター・ラジオクラブ
 月例会 第2金曜日 1800
 Roll Call 毎週土曜日 0900 14.155MHz
 e-mail : ja3zag@ja3.net